

平成20年2月

武田賢一 学位論文審査要旨

主 査 村 脇 義 和
副主査 渡 邊 達 生
同 清 水 英 治

主論文

Sequential treatment with SN-38 followed by 5-fluorouracil (5-FU) shows synergistic cytotoxic activity in small cell lung cancer cells

(小細胞肺癌細胞株に対するSN-38と5-fluorouracil (5-FU)逐次併用による相乗効果)

(著者：武田賢一、陶山久司、井岸正、重岡靖、松本慎吾、山崎章、橋本潔、澄川崇、森田正人、上田康仁、清水英治)

平成20年 Oncology Reports 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は肺癌臨床において使用されることの多いfluoropyrimidine系抗癌剤とirinotecanの小細胞肺癌に対する併用効果を検討したものである。その結果、CPT-11の活性体であるSN-38は小細胞肺癌細胞株に先行投与することにより5-FUに対する感受性を高めることが示され、そのメカニズムとしてSN-38がTS蛋白量発現を抑制することが考えられた。本論文の内容は、小細胞肺癌におけるfluoropyrimidine系抗癌剤とirinotecanの併用療法の可能性を明らかにしたものであり、肺癌治療における薬物相互作用の面で、明らかに学術水準を高めたものと認める。